

まったく違います。

「連合赤軍派」「革マル派」「中核派」などは、一般的には、過激派(極左暴力集団)と呼ばれ、共産主義社会実現をスローガンに掲げていますが、実際は「平等」「自由」「民主主義」に反した暴力集団です。日本共産党は、これらのグループとは一切関係がなく、暴力主義を完全に否定しています。

当時の自民党政府は、ベトナム反戦と政治革新を求める国民の戦いを抑えるため、その先頭に立つ日本共産党をイメージダウンさせるため、「連合赤軍」など、共産主義を偽装する「ニセ左翼」暴力集団を泳がせる政策をとっていました。あさま山荘事件直後の国会で、当時の後藤田正晴警察庁長官や富田朝彦同警備局長は、「連合赤軍」のなかに「協力者」をもち「謝礼金」も渡していたと認めています。中曽根康弘氏は、「彼らの暴走が、反射的に市民層を反対にまわし、自民党の支持につながる作用を果している」と語っています。(昭和44年5月3日 朝日新聞)

出所

JCP サイト

http://www.jcp.or.jp/akahata/aik07/2008-11-20/ftp20081120faq12_01_0.html